

2023年度(2024年3月期) 上期決算説明資料

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

2023年11月1日

2023年度上期決算 総括

顧客の旺盛なDX需要を捉え
2023年度計画達成に向けて順調に折り返し地点を通過

- ◆売上収益とすべての段階利益、及び受注高は上期として過去最高を更新。受注残高は過去最高値となった
- ◆売上総利益率、営業利益率も前年同期比で上昇した

業績

(億円)

	2022年度 上期	2023年度 上期	増減額	増減率
売上収益	2,544	2,746	+ 202	+ 7.9%
売上総利益	605	692	+ 87	+ 14.3%
(売上総利益率)	(23.8%)	(25.2%)	(+1.4p)	-
その他の収益及び費用	▲432	▲482	△ 50	+ 11.5%
営業利益	173	210	+ 37	+ 21.4%
(営業利益率)	(6.8%)	(7.6%)	(+0.8p)	-
当社株主に帰属する 四半期純利益	120	149	+ 29	+ 24.2%
受注高	2,861	2,969	+ 107	+ 3.7%
受注残高	3,713	4,193	+ 480	+ 12.9%

■売上収益

- ▶高水準にある受注残、好調な受注を背景に増収続く
- ▶売上収益増加の背景は主に以下のとおり
エンタープライズ事業グループでは製造業向け製品販売など、流通事業グループでは商社向けDX案件など、
広域・社会インフラ事業グループでは社会インフラ向け製品販売など、金融事業グループでは政府系金融
機関向けのインフラ構築などが好調

■売上総利益

- ▶増収効果、及び売上総利益率が+1.4p上昇した効果により増益となった

■その他の収益及び費用

- ▶下記理由により販売費及び一般管理費が増加
 - ・社員数の増加、昇給などによる人件費の増加
 - ・営業活動の活発化や社内IT環境の整備などによる費用の増加
 - ・TOB関連費用の発生

■受注高

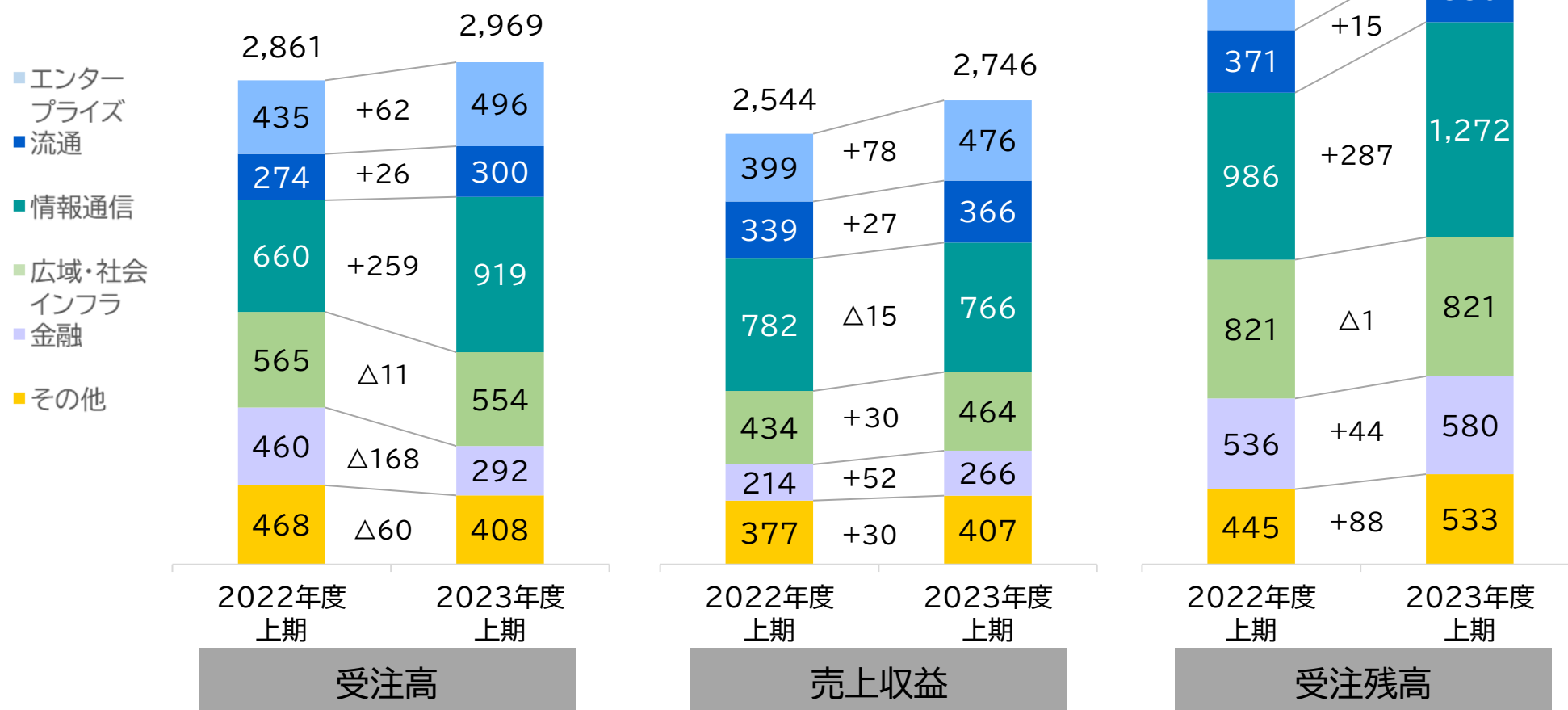
- ▶金融事業グループにおける前年同期の大型案件の反動あるも、受注トレンドは引き続き好調
- ▶情報通信事業グループでは非ネットワーク分野向け、エンタープライズ事業グループでは製造業向け、
流通事業グループでは小売業向けの受注がそれぞれ増加した

■受注残高

- ▶第1四半期末受注残高から更に積み増し、過去最高を更新

受注高・売上収益・受注残高 (事業グループ別)

(億円)



■エンタープライズ

受注:製造業向け製品販売・保守、運輸向けサービスや製品販売、情報サービス業向けクラウドサービスなどが増加

売上:製造業、建設業向けの製品販売やクラウドサービス、運輸向け製品販売などが増加

■流通

受注:商社向け開発は引き続き活況、加えて小売業向けクラウドサービスやシステム開発などが増加

売上:エンターテインメント向けインフラ、情報サービス業向けSAP関連ビジネス(詳細は次頁)などが増加

■情報通信

受注:通信キャリア向けの製品販売や保守サービス、情報サービス事業者との共創ビジネスによるインフラ構築などでネットワークビジネス・非ネットワークビジネスの両方で増加

売上:ネットワークビジネスはほぼ横ばいながら、前年同期の情報サービス事業者との共創ビジネスにおける大口の製品販売案件の反動により減少

■広域・社会インフラ

受注:前年同期の公益・公共向けプラットフォーム構築・運用の大型の反動あるも、引き続き公共向けシステム維持保守やアプリケーション開発、公益や社会インフラ向け製品販売などが好調

売上:公共や官公庁向けインフラの反動あるも、社会インフラ向けや自動車向け製品販売などが増加

■金融

受注:前年同期の政府系金融機関やその他金融向けの大型案件の反動あるも、銀行、その他金融向けのクラウド運用、銀行向けの製品販売などで好調に推移

売上:銀行向け製品販売、その他金融向けアプリケーション開発、前期受注した政府系金融機関向けのインフラ構築などを遂行することで増加

■その他

受注:海外事業会社(シンガポール、マレーシア)における製品販売などが減少

売上:国内事業会社や海外事業会社(マレーシア)における製品販売などが増加

ビジネスピックアップ①: 「Figures」が加速するSAP関連ビジネス

【What is "Figures" ?】

”Fit to Standard
(F2S)”を掲げる
SAPの標準導入



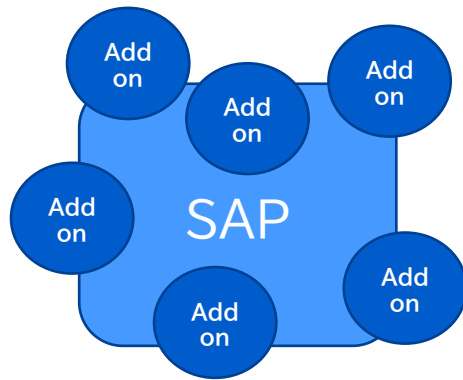
SAPとお客様独自の
アプリや個別システム
のAPI連携



マルチクラウドで柔軟な
基幹システムの実現

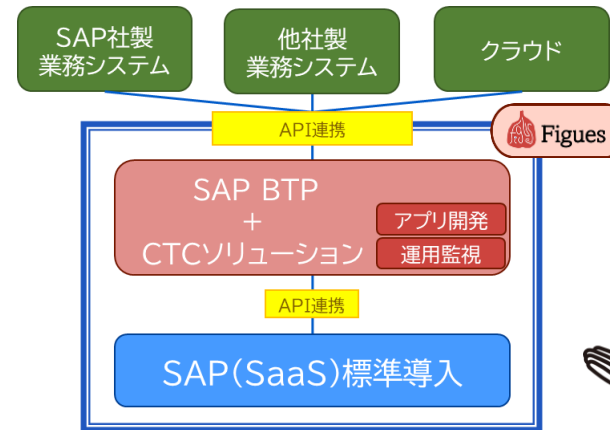
これまで

バージョンアップが
たいへん...



- ・SAPを業務に合わせるためのAdd onでがんじがらめに
- ・SAPバージョンアップに伴いAdd on側も対応が必須

Figuresで可能になること



マルチクラウド基幹システムに
精通したCTCが、
自由なシステムの組合せを実現

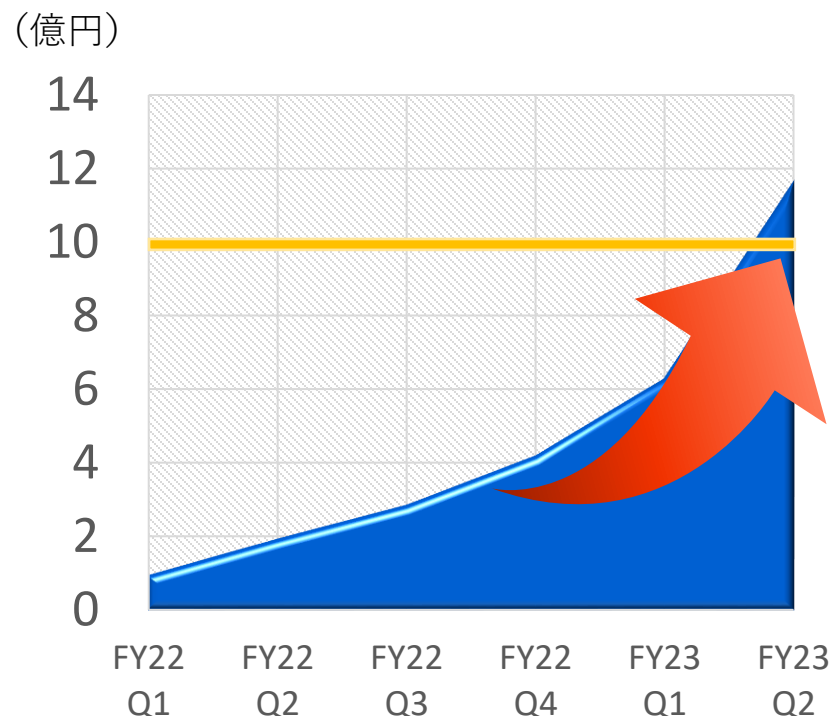
- ・F2SでSAPを標準導入、業務アプリや個別システムとのAPI連携で柔軟なシステムを構築
- ・SAPバージョンアップに伴う個別システムの対応は必須ではない

【Why CTC?】

- ・CTCは、**SAP社のSaaS型ERPとSAP BTPを両輪で取り扱う**数少ない国内ベンダーの1つ。20年以上の経験に裏付けられた「技術」と「技(わざ)」で、お客様の課題を解決。
- ・CTCには、日本では数名のみが認定されている「**SAP BTP アンバサダー**」と「**SAP BTP チャンピオン**」が共に在籍。業界トップクラスの技術力と実績で、お客様のSAP利活用を強力にサポート。

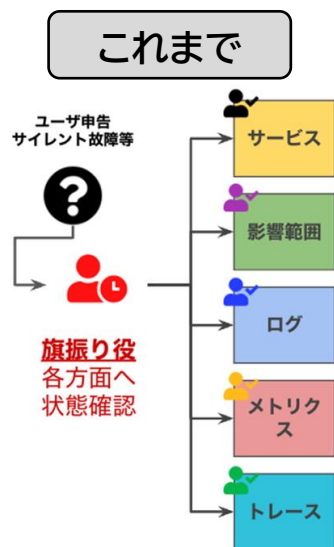
【Figuresビジネスの売上】

2021年10月にリリースした「Figures」は、当初3年間で売上高10億円の目標を掲げていたが、目標を前倒しし2年間で売上高**10億円**を突破。現在は、3年後までに累計売上高50億円とする目標を掲げている。



【What is "PITWALL™" ?】

- ・CTCが独自視点で開発した**Observability分野のクラウドサービス**
(日本国内向けに先行公開として、2023年下期中に提供開始予定)
- ・システムの的確な状況把握をするための各種管理データ(システムの状態、ログや性能、セキュリティ等)へのアクセスを一元化し、インシデント対応を迅速化



- ・システムが複雑化しており、有事における状況把握に時間を要する
- ・各ツール知見の分散、一部のエキスパートへの高い依存性

PITWALLで可能になること



- ・有事における**迅速かつ正確な状況把握と、クイックな打ち手**
- ・システム観測を容易、かつ有識者への知見共有を可能にし**属人性を低減**
- ・対応プロセスを標準化、組織での継続的改善を実現

適切な初動の遅れに伴うブランドへの影響や財務的損失を抑制

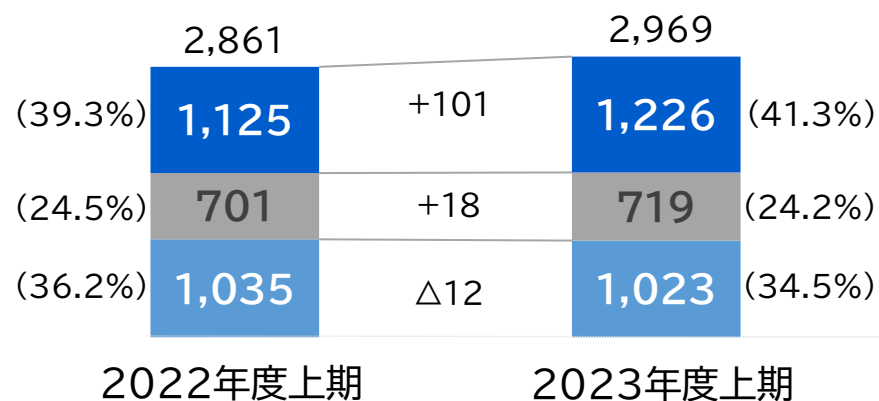
【Why CTC?】

- ・お客様の現場に近い立場にいるCTCだからこそ、製品ベンダーとの間に立って、お客様の視点でよりよいサービスを創出することが可能
- ・CTCはアメリカからの最先端技術発掘を源流としており、今までの経験・知見をもとにこれから求められるものが何かというCTCならではの着眼点から構想をスタート

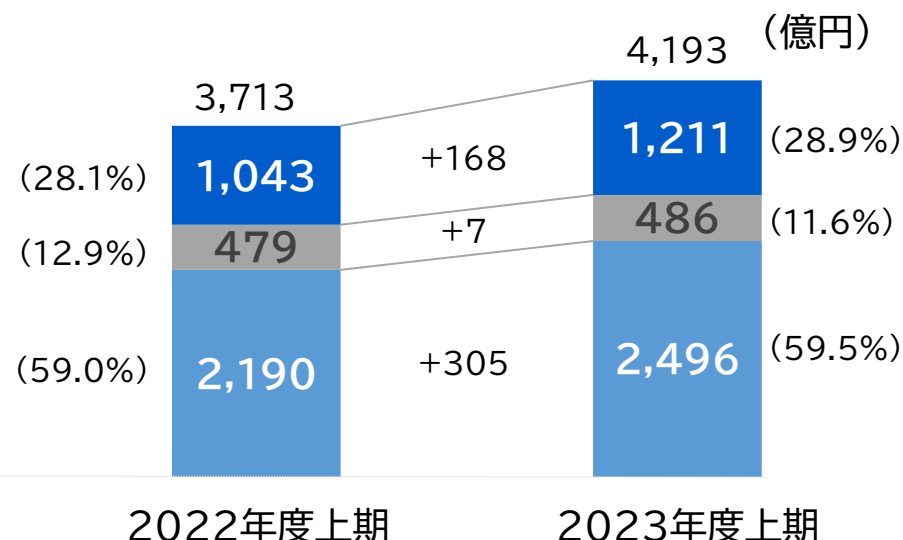
【What is "Observability" ?】

デジタル化、データドリブンといった潮流の中、ITシステムを利用する各企業は、ビジネスに影響を与えないよう、迅速かつ適切なシステム管理や有事の際の初動における状況把握が求められている。そこで米国で注目され始めたのがObservabilityという考え方。日本語では「可観測性」と言われる通り、システムが動く環境を観測できるようにする仕組み。

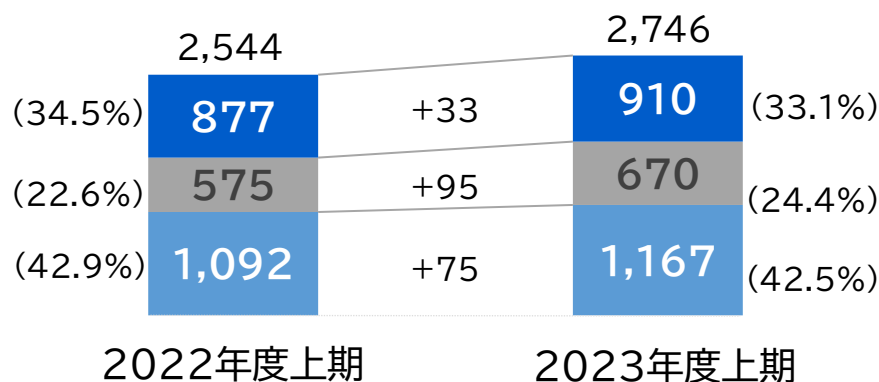
受注高・売上収益・受注残高 (ビジネスモデル別)



受注高



受注残高



売上収益

- 製品
- 開発・SI
- サービス

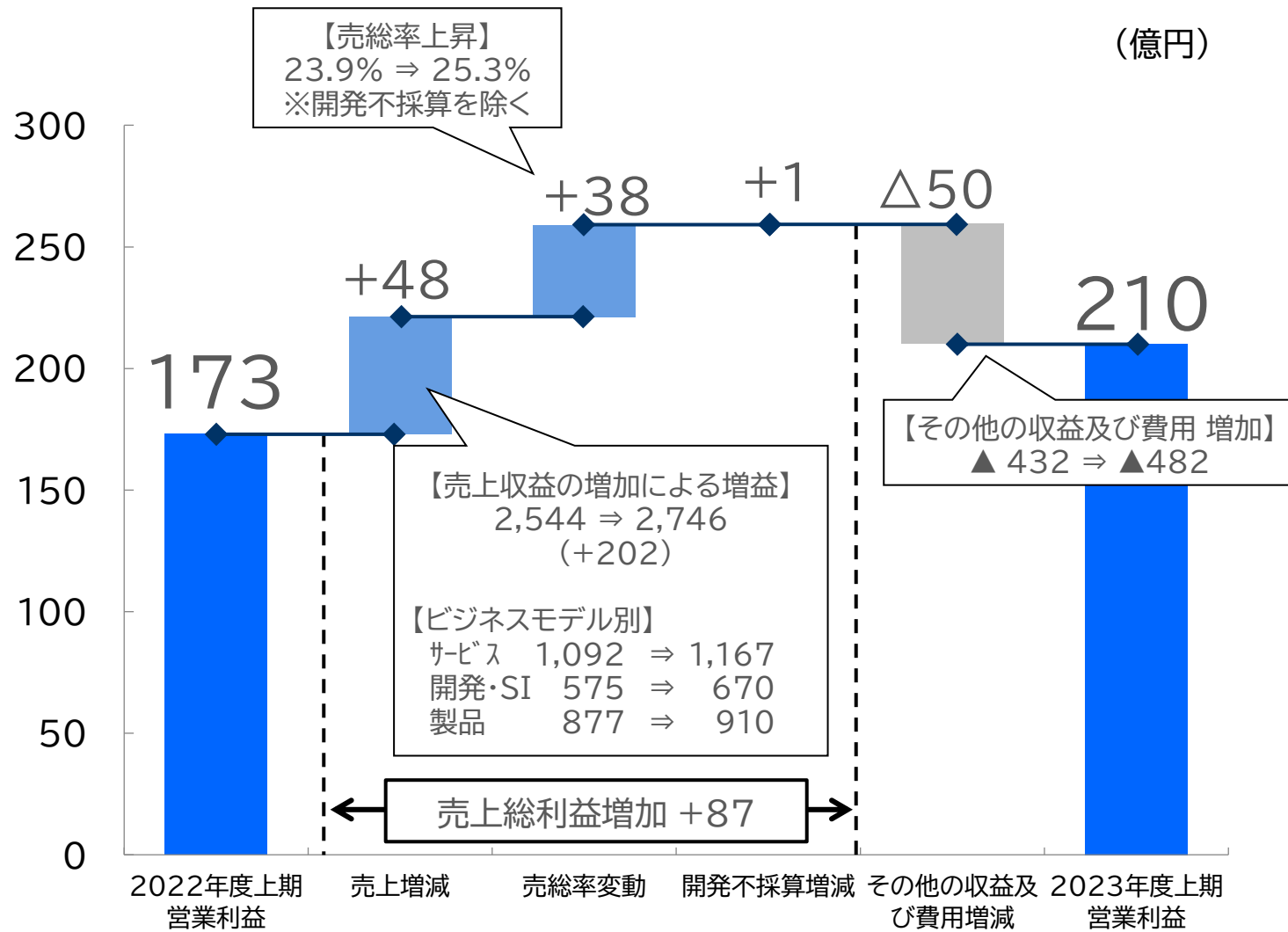
※()内の割合は構成比

その他の収益及び費用 内訳

(億円)

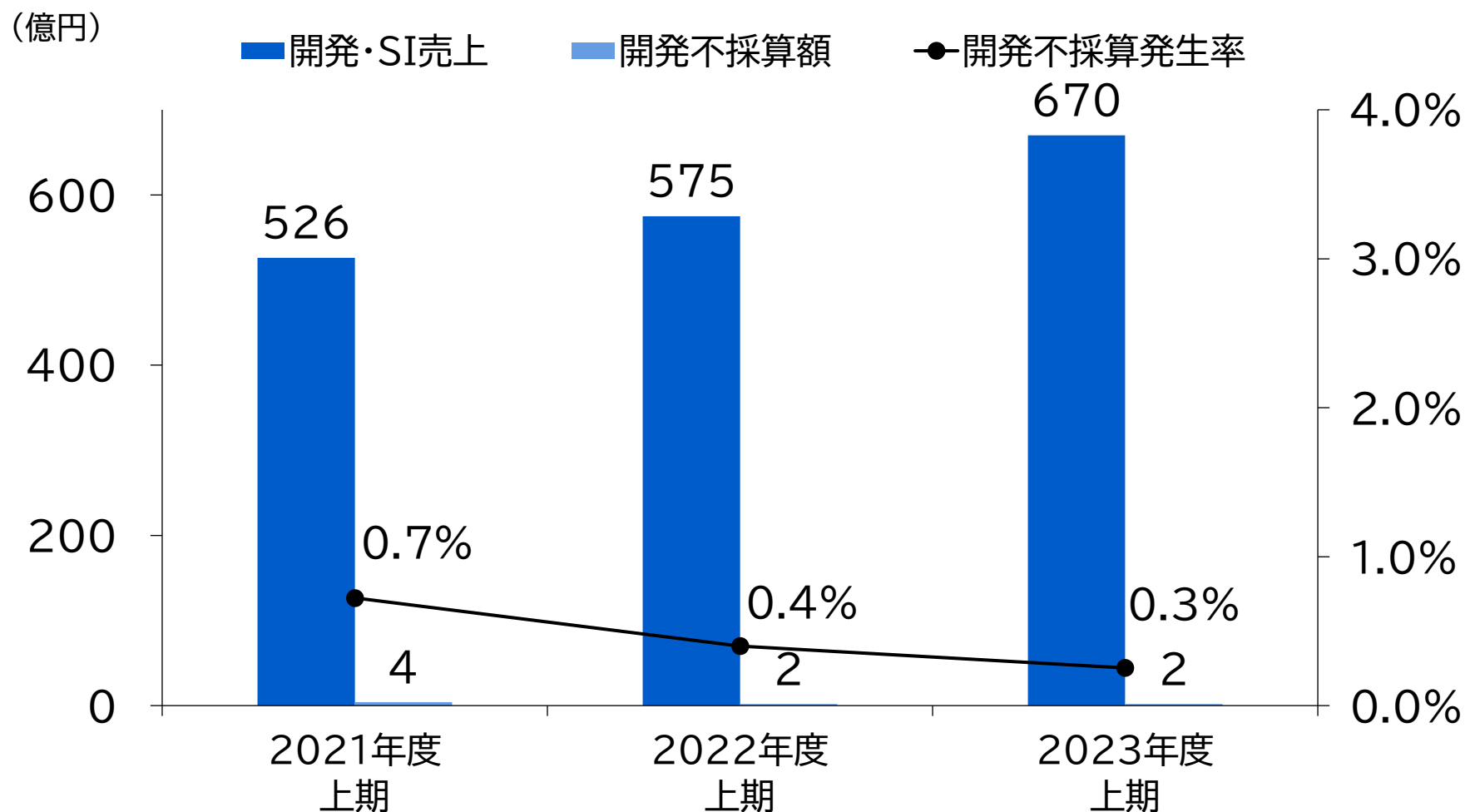
	2022年度 上期	2023年度 上期	増減額
人 件 費	▲263	▲288	△ 26
委 託 社 員 受 入 費	▲41	▲47	△ 5
減 価 償 却 費	▲31	▲28	+ 2
そ の 他	▲110	▲128	△ 18
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	▲444	▲492	△ 47
そ の 他 の 収 益	14	11	△ 3
そ の 他 の 費 用	▲2	▲1	+ 1
その他の収益及び費用合計	▲432	▲482	△ 50

営業利益の増減要因(前年同期比)



開発・SI売上高と開発不採算

開発不採算発生比率は過去最低水準を持続



2023年度 通期業績予想

期初公表値から変更無し

(億円)

	2022年度 実績	2023年度 業績予想	増減額	増減率
売上収益	5,709	6,250	+ 541	+ 9.5%
売上総利益	1,391	1,560	+ 169	+ 12.2%
(売上総利益率)	(24.4%)	(25.0%)	(+0.6p)	-
その他の収益及び費用	▲926	▲980	△ 54	+ 5.8%
営業利益	465	580	+ 115	+ 24.8%
(営業利益率)	(8.1%)	(9.3%)	(+1.2p)	-
当社株主に帰属する益	342	400	+ 58	+ 16.9%
受注高	6,284	6,510	+ 226	+ 3.6%
受注残高	3,970	4,230	+ 260	+ 6.5%

・本資料に記載されている業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定要素を含んだものです。

実際の業績は、経済情勢をはじめさまざまな要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。

CTC

▼ *Challenging Tomorrow's Changes*